

スマホで撮って肌診断

洛洛.comが中国展開

交流機能で継続利用促す

洛洛.com(らくらく.com)は、京都市中京区、安達貞雄社長、075・253・3050)は2013年1月をめぐりに、中国でクラウドコンピューティングを活用した肌状態を診断するサービスを始める。スマートフォン(多機能携帯電話)で撮影した肌画像をサーバに送信すると肌の状態を自動で診断。美容に興味がある若者世代を中心に利用者を取り込む。日本を含め15年度に利用者数150万人を目指す。



肌状態を診断する「ポートカム」は現在、日本と米国でサービスを提供している。別売りの専用レンズキットを米アップルの「iPhone」(アイフォン)に装着し、レンズ部分を肌に密着させて撮影。データを専用サーバに送信するとキメ・シミ・毛穴・水分・油分の5項目の状態を自動で分析し、利用者の結果を知らせる仕組み。中国では現地のミニブログ「ウェイボー」やソーシャル・ネットワークキング・サービス(SNS)サービス「キューキュー」と同サービスを連

動させ、利用者同士の交流や情報交換の場を提供。サービスの継続利用を促す。

スマホの電池節約

設定切り替えアプリ試作

トレンドマイクロは2日、スマートフォン(多機能携帯電話)の電池残量を管理できるアプリケーション(応用ソフト)の試作版を、米ゲーマルの基本ソフト(OS)「アンドロイド」搭載端末向けに公開したと発表した。通信機能を切断する機能や使用回数の少ないアプリを停止する機能

化粧品メーカーなどが広告を募ることも検討する。診断結果とともに各利用者の肌状態に適した化粧品をサイト上で紹介。対象を絞った販促活動が行える点をメーカーに訴求し、将来の収益モデルに位置づける。中国ではサービス周知のため現地販売代理店の協力を得るほか、将来は現地企業との合弁会社設立も検討。販路の構築に力を入れ、海外事業の地盤固めを急ぐ。



タプ
う。
ット
いで
マー
話)
ス
KD